

## アブラハムの召命

「【主】はアブラムに仰せられた。「あなたは、あなたの生まれ故郷、あなたの父の家を出て、わたしが示す地へ行きなさい。そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとしよう。あなたの名は祝福となる。あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう。地上のすべての民族は、あなたによって祝福される。」(創世記12:1-3)

アブラム(後にアブラハムと改名された →創17:5)の召命は創世記12章に記録されている。この章は人類との関係を回復しようとする神の目的が啓示される旧約聖書の中での新しい区分の始まりである。人間の反抗の罪が神との関係を壊していたけれども人間にはその回復が絶対に必要なことを神はご存じだった。そこで神はこの目的のために貢献できる人を探された。神を知り、神に完全に頼り、神に仕えたいと願う一人の人を求められたのである。それがアブラムだった。この人から主のご計画を知り、それを教え守ろうとする一つの家族が後に生れることになる(→創18:19注)。そしてこの家族から特異な(他と違う)民族、特別な神との関係を持つ民族が生れる。彼らはほかの民族が歩む、神を敬わない道を拒んで、むしろ神のご計画を実現しようとする。そしてこの民族から世界の救い主、イエス・キリストがお生れになる(ガラ3:8, 16, 18)。この方こそが女から生れ、蛇を踏み砕くと神が約束された方である(→創3:15注)。

アブラハムの召命には信仰者が学ぶべき次のような重要な原則が含まれている。

(1) アブラハムには自分の国、自分の民族、自分の家族(創12:1)から離れることが求められていた。神はご自分の目的を果すときに妨げとなるものから、神の民が分離しなければならないという重要な原則を確立されたのである(→「信者の霊的聖別」の項 p.2172, 「キリスト者とこの世」の項 p.2437)。

(2) 神はアブラハムに特定の土地が与えられ、子孫が偉大な民族になること、地上の民族全部に影響を与えることになる祝福を約束された(創12:2-3)。この約束の最後の部分はキリストの福音が全世界に伝えられる中で成就されつつあることを新約聖書は明らかに教えている(使3:25, ガラ3:8)。

(3) アブラハムの召命には地上の国だけではなく天の御国が関連している。アブラハムは最終的な家は地上ではなく天上にあることを意識するようになった。天では神が「設計し建設された」都で平和に暮らすことができる(→ヘブ11:9-10, 14-16, ⇒黙21:1-4, 22:1-5)。その時までアブラハムは地上では旅人(外国人)であり寄留者である(ヘブ11:9, 13)。

(4) アブラハムの召命には約束と義務が含まれていた。約束は未来に起こることへの期待であるけれども、義務は同意したことを確信してそれに携わることである。神はアブラハムに、神を主、生涯の導き手、権威として従い自分をゆだねていくことを要求された。それは約束されたものを受取るためだった。この服従とゆだねることには、(a) 人間的には不可能に見えるときでもなお神のことばに頼ること(創15:1-6, 18:10-14)、(b) 自分の家を出なさいという神の命令に従うこと(創12:4, ヘブ11:8)、(c) 神の標準に従って生活し神が正しいと言われたことを行うように努めること(創17:1-2)が含まれていた。

(5) アブラハムへの神の約束と祝福は、肉体的子孫(ユダヤ人)に限定されるものではない。約束はアブラハムの「子孫」(→ガラ3:14, 16)であるイエス・キリストを受入れ従う人々全部に及ぶものである。アブラハムのような信仰を持つ人はみな、「アブラハムの子孫」(ガラ3:7)であり、アブラハムとともに祝福される(ガラ3:9)。その人々はキリスト・イエスにある「約束の御霊」(→ガラ3:14注)を含む約束を、信仰によって相続することになる(ガラ3:29)。

(6) アブラハムは信じてその結果従ったので、救いに至る純粋な信仰(神が喜ばれ神との関係を持つことを許される部類のもの)を示す最高の模範となった(⇒創15:6, ロマ4:1-5, 16-24, ガラ3:6-9, ヘブ11:8-19, ヤコ2:21-23, →創15:6注)。聖書によるなら、イエス・キリストを救い主として信じていると言って



